



近年、大学入試における総合型選抜と学校推薦型選抜の拡大が続いています。昨年ベネッセコーポレーションが全国の777大学を対象に行ったアンケートの結果によると、「総合型選抜・学校推薦型選抜で受験生に求めるもの」として「とても重視している」と回答した割合が高い項目は次の通りです。

総合型選抜	学校推薦型選抜
1 明確な志望動機 (87.1%)	1 明確な志望動機 (76.0%)
2 何事にも前向きに取り組む姿勢 (60.8%)	2 基礎学力 (58.9%)
3 コミュニケーション能力 (57.7%)	3 思考力・判断力・表現力などの応用的な学力 (49.8%)
4 思考力・判断力・表現力などの応用的な学力 (54.3%)	4 コミュニケーション能力 (48.2%)

そして、同アンケートによると、「総合型選抜・学校推薦型選抜で最も重視する選抜方法」の結果は、どちらも割合が高い順に「1 面接 2 教科試験 3 小論文」となっています。つまり、上記の項目を中心とした受験生の適性や能力を把握し、どれだけの意欲があるかを見極めるための手段として、多くの大学で面接や小論文が活用されているということです。

昨年度の「三高進路 NEWS 第5号」では、「①先輩の受験報告書より、実際の面接試験で聞かれた質問」と「②作文と小論文の違い、構成メモ（課題解決型）の書き方の具体例」を紹介しました。今年度は、別の切り口からそれぞれの試験のポイントを説明していきます。（昨年度発行の「三高進路 NEWS 第5号」は、右のQRコードから読むことができます。）



① 面接試験について

【面接のポイント】（出典：鳥取大学入学センター資料）

- ・時間が限られた対話であることを意識する。
- ・一方的に話をしない。
- ・結論から述べ、その後で理由や詳細を説明する。
- ・質問の意味がわからなければ聞き直す。
- ・面接官の質問は、自分への興味と考える。
- ・問われたことに答える（必要なこと以外は答えない）。
- ・マイナス面を自分から積極的に話さない。
- ・否定的、消極的な気持ちではなく、肯定感を持つ。

面接で必ず問われるのは、「①志望理由」「②高校生活で力を入れたこと」「③自己PR」ですが、自分の学びたいことや高校時代の経験に関心を持ってもらい、面接官と自信を持って対話をするためには、次のことを意識して高校生活を送ることが重要になります。

- ★自分にしか語れない活動（経験や失敗、試行錯誤）をする。（主体的な活動であるほどよい。）
- ★その活動を通して「何ができるようになったか」「何がうまくいかなかったか」「なぜそのような結果になったのか」「どのような学びや成長があったか」「次はどのようにすればよいのか」を振り返る。
- ★活動と振り返りから得た気づきを、次のステップ（次の目標や活動、進路など）に活かしていく。

面接試験で高い評価を得る人の共通点は、〇〇に興味があることを具体的に証明できる行動履歴があり、自分だけの強み（魅力や持ち味）を伝える表現力があるということです。各学期末の「キャリアパスポート」への記述を積み重ねていくことで、面接試験に必要な「自信」や「自己肯定感」も蓄積されていきますよ。進学希望の人は『進路の手引き』の20～21ページ、就職・公務員志望の人は42～45ページも参照してください。

② 小論文試験について

自分が挑む入試に小論文試験があることがわかったら、『進路の手引き』の18～19ページを読んで出題形式や勉強法を確認してください。2・3年生は、これまでに受けた小論文模試の答案や事前学習ノートを見直して、ポイントを確認しましょう。

苦手意識がある人は、いきなり文章を書こうとするのではなく、まずは構成メモを作る練習を積み重ねることをお勧めします。小論文の出来は、この構成メモが完成した時点でほとんど決まります。やみくもに文章を書くよりも大きな効果がありますよ。

さて、どんなに練習を積み重ねても、実際の入試では緊張で頭が真っ白になってしまうこともあるでしょう。たとえばこのようなとき、あなたはどのようにしますか？

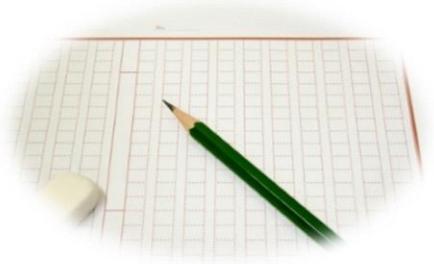
【Case 1】想定外の問題が出た！

【Case 2】適切な具体例が思いつかない！

【Case 3】文字数が足りない！／制限字数をオーバーしそう！

【Case 4】序論と結論がズレてしまった！

【Case 5】時間が足りない！



上記は、実際にこれまでの先輩達が受験本番で直面した危機的場面です。このようなときにも落ち着いて取り組めるように、対処法を紹介しておきます。

【1の対処法】想定外なのは他の受験生も同じ！まずは落ち着いて設問をよく読み、「問われていること」と「解答する上での条件」を確認しよう。小論文である以上、解答の手順や構成の仕方など、これまでに練習してきたことが必ず活かせるよ！

【2の対処法】自分の体験→身の回りの出来事→地域→日本全体→世界へと視野を広げていこう。また、過去→現在→未来という時間軸にも注目しよう。自分が学びたい分野に関する現代社会の諸課題を「キーワード」として事前にストックしておくとお守りになるよ！

【3の対処法】足りない→具体例を追加したり、「自分とは別の立場の意見や論拠」と「それに対する自分の立場からの反論」を加えたりして、構成を修正しよう。

オーバー→同じ内容を繰り返している部分、自分の主張に直接結びつかない補足説明、説得力が弱い方の具体例などを削って調整しよう。

【4の対処法】このケースは構成メモを作成していれば防ぐことができる。構成メモが完成しないうちに焦って書き始めるのはやめよう！

【5の対処法】「最後まで書き切れなかった…」というのは絶対に避けたい。過去問題の制限時間をもとに、事前に「課題文と資料を読解する時間」「構成メモを作る（構想を練る）時間」「原稿用紙に書く時間」のそれぞれにける時間の目安を決めておき、練習のときから常に時間配分を意識して取り組むようにしよう。

最後に構成メモの作り方の例を示しておきますので参考にしてください。

	自分の立場(意見)を示し、理由を述べるタイプ	現代社会の問題の原因と対策を考えるタイプ
序論	課題文の筆者の主張とそれに対する自分の意見	課題文と資料から読み取れる現代社会の問題点とその原因・背景
本論	理由と具体例	自分の視点からの考察と解決策の提示
結論	自分の意見の再提示（と今後の展望）	今後の展望